

愛媛県越智郡上島町 赤穂根島総合生物調査

山本貴仁 小川次郎 宮脇 馨

愛媛県総合科学博物館
愛媛県新居浜市大生院2133番地の2
愛媛野生生物研究所
赤穂根学舎

資 料

愛媛県越智郡上島町赤穂根島総合生物調査

山本貴仁¹・小川次郎²・宮脇 馨³

Faunal survey of the AKAHONE Island, Kamijima, Ehime Pref.

Takahito Yamamoto, Jiro Ogawa, Kaoru Miyawaki

は じ め に

赤穂根島は、瀬戸内海のほぼ中央部にあり、芸予諸島のうち、岩城島などとともに上島諸島に属する面積2.09 km²の島である。2004年10月1日に周辺1町3村（越智郡弓削町、同生名村、同岩城村、同魚島村）が合併し上島町となった。合併以前は越智郡岩城村に属し、岩城島の約300m南東海上にある（図1）。1951年頃までは有人島であったが、それ以降無人島になり、2001年9月に再び2名が住むようになっている。

調査は2004年4月から2007年1月まで行われ、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類等の各生物相を明らかに

することを目的とした。

瀬戸内海には多くの島があるが、比較的面積が広く、平坦地がある島はほとんどが有人島である。赤穂根島における現時点での生物相を捉えることは、生物地理的な関心だけでなく、瀬戸内海島嶼部において、放棄された農地の植生がどのように遷移し、それに伴い生物相がどのように変化するかを将来において比較することが可能となる。

本報告では、赤穂根島の概要と調査により確認された哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類について報告する。昆虫類については、既に小川・久松（2006）により報告されている。

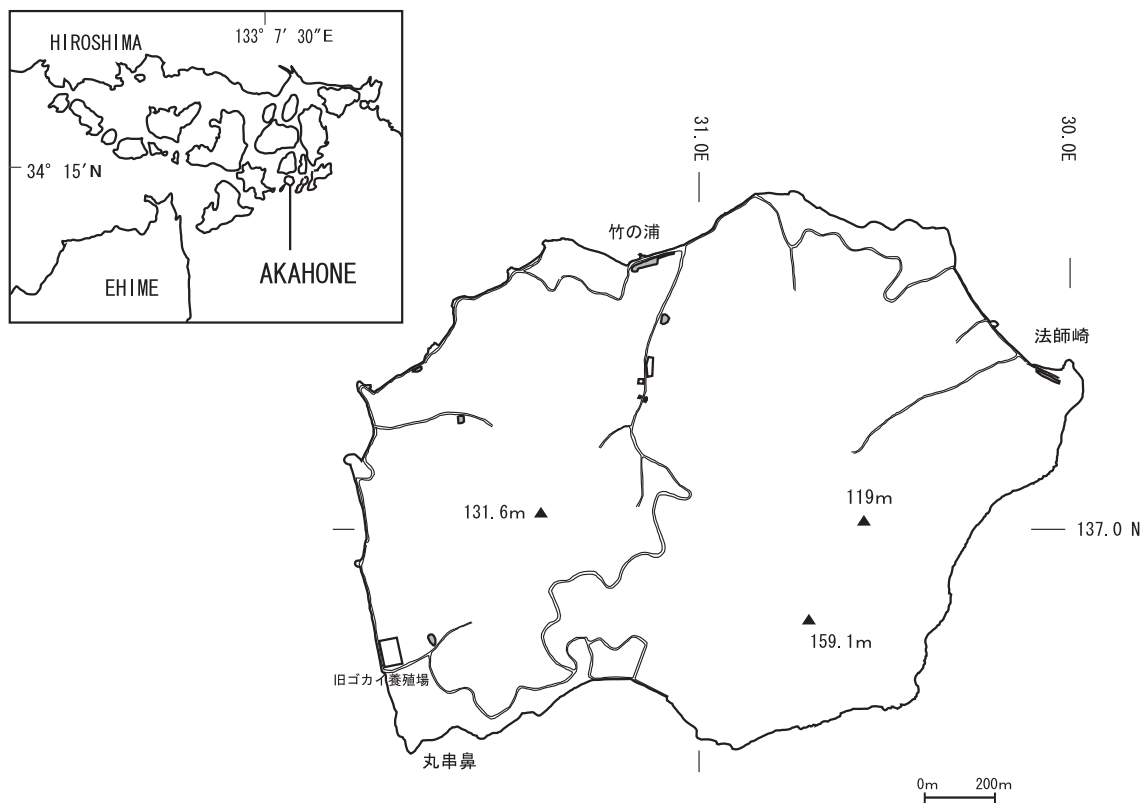


図1 赤穂根島位置図

1 愛媛県総合科学博物館
Section of Natural history, Ehime Pref. Science Museum
2 愛媛野生生物研究所 Institute of Wildlife Ehime
3 赤穂根学舎 AKAHONE GAKUSYA

調査にあたっては、愛媛大学農学部環境昆虫学研究室の栗原隆氏ほか学生諸氏、株式会社環境アセスメントセンターの田中道明氏、面河山岳博物館学芸員の矢野真志氏、元愛媛県総合科学博物館学芸員の鈴木麻乃氏に協力いただいた。記して厚くお礼申し上げる。

赤穂根島の概要

地質・地形

地質は中央構造線北側の内帯である領家帯に属し、主に広島花崗岩と呼ばれる中～粗粒の黒雲母花崗岩からなる（図2）。広島花崗岩は風化しやすく、10～30mの厚い風化殻をつくりマサとなる（日本の地質「四国地方」編集委員会編、1991）。マサは、雨水による侵食に弱く、保水力もないため土壌の発達が悪く、尾根や傾斜が急なところでは植生が疎である。島内には標高100m以上のピークが3箇所あり、南東側の急斜面山頂部が最高地点で標高は159.1mである。丘陵地の谷は浅く、マサによる埋積により谷頭にかけて緩やかな斜面となる。島の中央部に北向きの谷があり、海岸にかけてややまとまった平坦地がある。この平坦地は、浅い湾が埋まり形成されたと考えられるが、稲作を行うために人工的に埋められた可能性もある。かつては全面で稲作が行われていたが、現在は大部分が放置され、ヨシやガマの繁る湿地となっている。この谷に僅かな水流が認められる以外は島に水の流れは無く、谷は涸れ谷となっている。ため池は島内に4箇所あり、海岸沿いの1箇所を除き、農業用に造られたものと思われる。

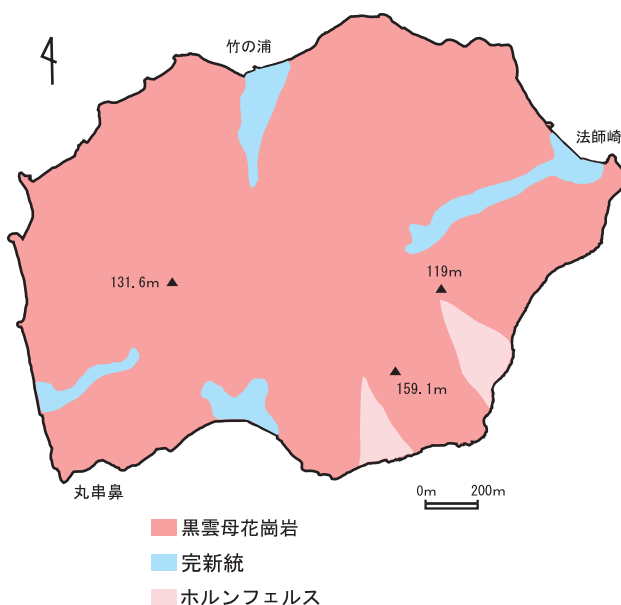


図2 赤穂根島地質図
（日本の地質「四国地方」編集委員会編、1991；愛媛県地質図編集委員会、1991より作成）

気 象

赤穂根島において気象観測は行われていないが、近隣の大三島に設置されているアメダスのデータを表1に示す。1979年から2000年に観測された値によると、年平均気温は15.4℃、年平均降水量は1142.4mmと温暖で降水量が少ない特徴がある。温暖少雨の瀬戸内海気候区の中でも、年平均降水量が1200mm以下と最も降水量が少ない地域に含まれる。

風は、2月～4月と9月～11月は北東の風、5月～8月は南西からの風が吹くが、年間を通じて穏やかで特に2月と12月は無風の日が多い（岩城村誌編集委員会編、1986b）。

植 生

海岸沿いの崖及び斜面にはウバメガシの群落がみられる。ウバメガシは、海岸の崖では純林に近いがその他では、アベマキ、ヤマウルシ、ナワシログミなどが混じる。島内では大部分がアカマツ群落である。アカマツは枯死しているものも多く、ヒサカキ、ヌルデなど低木の広葉樹が拡がりつつある。また、林床に高密度にコシダが覆う場所もある。ネズミサシ、クロマツなどもアカマツに混じる。谷沿いにはムク、アベマキ、エノキ、アキニレなどが生育し、林縁や放棄耕作地にはアカメガシワ、イヌビワ、オオバヤシャブシ、メダケが生育する。果樹が伐採されずに放棄された箇所は、果樹の上をクズが覆い尽くしている。湿地にはヨシ、ガマが生育する。水田にはコナギなどの水田雑草が生育し、ウキクサのほか、オオアカウキクサも多い。島の北部にあるため池の周囲にはダンチクが生育する。モウソウチクの竹林は、果樹園の周辺などに数箇所ある。竹の浦の海岸沿いは堤防となっており、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ツルナなどが小規模であるが生育する。

瀬戸内海島嶼部の森林植生は、栄養分の乏しい花崗岩の風化土壌に加え、有史以来、過度の利用と山火事により、未発達の状態が続いてきた。現在は、人口の減少や耕作者の高齢化等により放棄される農地が増加している。赤穂根島では近年山火事の発生もない。このような条件から、山火事の影響がなければ、二次的な森林から自然植生へ遷移が進んでいくものと思われる。

歴史・農業

芸予諸島は、伯方島の金ヶ崎で後期旧石器時代の遺跡が発見されるなど、早くから人が住み始めたことが知られている（伯方町誌、1985）。岩城島では小漕と船越から縄文時代後期の土器が出土しているが（岩城村誌編集委員会編、1986a）、赤穂根島からはこうした遺跡は発見されていない。

平安時代末期から鎌倉時代にかけて、瀬戸内海各地で

表1 大三島における気象観測値（1979年～2000年の平均値）
※日照時間は1986年～2000年の平均値 松山地方気象台電子閲覧室参照

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	平均風速(m/s)
1月	5.7	8.9	2.3	40.7	125.4	3.3
2月	5.5	9.0	1.8	53.6	137.7	2.9
3月	8.3	12.1	4.3	97.8	158.6	2.2
4月	13.1	17.4	8.9	101.6	177.7	2.0
5月	17.3	21.8	13.3	111.7	164.7	1.7
6月	21.1	25.0	18.0	199.1	117.8	1.5
7月	25.1	28.9	22.3	157.0	157.0	1.7
8月	26.7	30.9	23.6	81.2	197.9	1.7
9月	23.3	27.1	20.2	134.9	150.4	1.8
10月	17.8	21.8	14.1	77.9	174.0	2.1
11月	12.8	16.5	9.2	58.7	143.0	2.5
12月	8.2	11.7	4.5	28.3	139.9	3.1
全年	15.4	19.3	11.9	1142.4	1845.9	2.2

は塩が生産され、岩城島も主要な製塩地であった（岩城村誌編集委員会編，1986a）。当時、塩は揚浜式と呼ばれる方法によりつくられ、精製には大量の薪が必要とされた。

戦国時代には赤穂根島に砦があり、砦が撤去された跡地には、江戸時代になって八幡社が建てられたとされる（岩城村誌編集委員会編，1986a）。

近世において岩城島は、瀬戸内海における海上交通の要所として栄え、参勤交代の行われていた藩政時代には、松山藩の停泊地の本陣が岩城島に設けられていた（岩城村誌編集委員会編，1986a）。

赤穂根島も早くから人の影響を受けてきたと思われるが詳細は不明である。享保末年に記された「越智島旧記」に「あかうね島」という名がある。また、近年まで「向地」とも呼ばれていたようである（財団法人日本離島センター編，1988）。明治13年に記された「岩城村地誌」によると、赤穂根島には4戸があり、男9人女10人が住み、農業を専業としていることが記されている。また、作物は稲、粟、麦、甘藷であり、山には樹木が少なかったとある（岩城村誌編集委員会編，1986b）。

1951年頃までは人が住んでいたが、以後、無人島になり、岩城島の住民が出作りで稲作、畑作、果樹栽培を営んでいる。1972年の調査では、水田5.5ha、畑52.9haとなっている（岩城村誌編集委員会，1986b）。上島諸島は1916年に離島振興法の適用を受けている。1981年からは農村基盤整備地区として団体営樹園地農道網整備事業により、赤穂根島に農道が整備された。現在は2名が住民登録しており、岩城島からの出作りも行われている。レモンや晩柑類など柑橘栽培が中心で、稲作と芋などの小規模な畑作は北部の低地にみられる。1980年から耕作者のためのフェリーが週に1回運行されているが、耕作者の高齢化などにより、多くの農地が放棄されつつある。

引用文献

- 愛媛県地質図編集委員会（1991）愛媛県地質図．株式会社トモエヤ商事。
- 岩城村誌編集委員会（1986a）岩城村誌 上巻 古代・中近世編．596pp.
- 伯方町誌編纂会（1985）伯方町誌．1484pp.
- 岩城村誌編集委員会（1986b）岩城村誌 下巻 古代・現代編．1705pp.
- 日本の地質「四国地方」編集委員会編（1991）日本の地質8 四国地方 共立出版株式会社．pp.6-11.
- 小川次郎・久松定智（2006）愛媛県越智郡上島町赤穂根島の昆虫類その1 トンボ目・バッタ目ほか．四国虫報，(40)：pp.13-20.
- 財団法人日本離島センター編（1988）日本の島ガイド SHIMADAS.p.392.



図3 赤穂根島の概観 西側海上より



図4 ウバメガシ林



図5 放棄果樹園



図6 竹の浦の湿地



図7 北西のため池



図8 水田のオオアカウキサ 2004.4.26



図9 水田



図10 果樹園

愛媛県越智郡上島町赤穂根島の動物相 I (哺乳類・両生類・爬虫類・魚類・甲殻類)

はじめに

愛媛県越智郡上島町赤穂根島における動物相のうち、哺乳類、両生類、爬虫類、魚類について報告する。

愛媛県の瀬戸内海島嶼部における動物相の報告は、伯方島における総合生物調査（愛媛県高等学校教育研究会理科部会編, 1993）、本四架橋建設に伴う動物相調査報告（黒田編, 1974）がある。哺乳類に関しては、小型哺乳類についての報告（川口ほか, 1999；川口・方専, 2003；川口, 2003）がある。また、金子（1985）による四国に生息する食虫類、小型齧歯類の水平分布を論じたなかに芸予諸島の記録がある。その他、大型、中型の哺乳類については、市町村誌に種名の記述がある。赤穂根島においては、リゾート開発に伴う環境影響調査で動物相の調査が行われているが、公表されているものはない。

哺乳類

調査方法

シャーマン式トラップによる小型哺乳類捕獲調査（学術捕獲許可 愛媛県第15-12-1号, 第16-10-1号, 第18-9-4号）と自動撮影装置（Fieldnote I（有）麻里府商事製）による撮影を行った。また、2006年4月の調査時には、バットディテクター（MINI-3, Ultra Sound Advice 社製）を用い、コウモリの確認を行った。その他、島内滞在中に痕跡の発見にも努めた。

調査日

2004年4月26日～27日（シャーマン式トラップ19台, 自動撮影装置3台）、11月29日～30日（シャーマン式トラップ36台, 自動撮影装置3台）、2005年10月11日～12日（自動撮影装置2台）、2006年4月3日～4日（コウモリ調査）、9月27日～28日（シャーマン式トラップ36台, 自動撮影装置1台）に行った。

結果

齧歯目1種, 食肉目1種, 偶蹄目1種が確認された。翼手目は飛翔している個体が確認されたが、種の判別はできなかった。食虫類は昆虫調査で多数のベイトトラッ

プ、ピットホールトラップが設置されたが確認されず、坑道などの痕跡も確認できなかった。齧歯目は、ハツカネズミが湿地と農地周辺で確認された。食肉目は、タヌキが多く生息しており、イタチは目撃情報があるものの、生息の確認はできなかった。偶蹄目はイノシシの頭骨が発見された。以下に観察記録を記す。学名及び種の配列は、阿部ほか（2005）に拠った。

Chiroptera 翼手目

種不明. 2006年4月3日～4日に、北側の海岸付近から水田にかけての範囲でバットディテクターに（周波数は50kHz 付近）反応があった。島内に洞窟などコウモリが生息可能な環境は確認できなかった。農作業用の建物でも確認できなかった。

Rodentia 齧歯目

Muridae ネズミ科

Mus musculus ハツカネズミ

農作業用の建物付近でしばしば目撃されている。建物内にも侵入し、貯蔵している粃などを食べることもある。2006年9月には湿地内で1頭が捕獲された。湿地内はヨシが茂り、浅く冠水する環境であった。捕獲された2例はいずれも竹の浦から北に伸びる谷の平坦地である。

27 Apr 2004, ♀ 1 個体. 畑と竹林の境界で捕獲. 乳頭発達。

28 Sep 2006, 1 個体. 湿地内で捕獲。

Carnivora 食肉目

Canidae イヌ科

Nyctereutes procyonoides タヌキ

島内に広く分布し、昼間でも目撃することが度々あった。ため糞が農道上の随所に見られ、2004年4月26日の調査では、12箇所が確認された（図1）。農道上以外には、海岸沿いの堤防上にため糞がみられたが、林内で見つかったことはなかった。糞の内容物は冬期に柑橘類が大部分を占めていた。

26 Apr 2004, 農道沿いで4個体を目撃。

26-27 Apr 2004, 果樹園の脇（1個体, 鼻の傷から識別）と農道上に設置したカメラに写る。

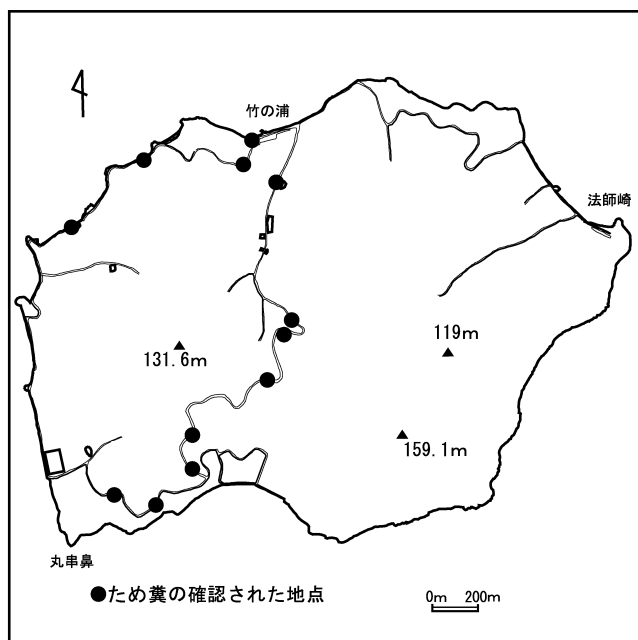


図1 タヌキのため糞が確認された地点 (2000年4月26日)

11-12 Oct 2005, 水田脇の農道に設置したカメラに写る.

27 Sep 2006, 水田畦に設置したカメラに写る.

Mustelidae イタチ科

島内での目撃例はあるが、今回の調査では痕跡も見られず撮影もされなかった.

Artiodactyla 偶蹄目

Suidae イノシシ科

Sus scrofa leucomystax イノシシ

1995年頃に赤穂根島南側の海岸で死亡した個体が発見されたことがあったが、今回、北側の農道で白骨化した頭骨が発見された。この頭骨は2004年4月26日にはなく、10月15日の時点で確認されており、その期間に死亡したと考えられる。現在、岩城島にはイノシシは生息しておらず、生息が確認されている生口島などから海を渡って来た可能性がある。

30 Nov 2004, 頭骨を採集。総合科学博物館標本 EPSM-MA-1263.

考 察

翼手目を除くと、今回の調査から赤穂根島にある程度の個体数が生息するのは、ハツカネズミとタヌキのみと考えられる。タヌキの個体数は推測できないが、出会う頻度やため糞の様子から、全域にかなりの個体が生息していると思われる。イタチは目撃例があることから、更に調査を行えば確認される可能性があるが、糞や足跡などの痕跡が見つからず、個体数が多いとはいえないであ

ろう。

島の面積とネズミ類の分布には規則性がみられ、面積10km²以上の島にはアカネズミが分布することが知られている(金子, 1992)。この規則性や周辺の島での生息状況から赤穂根島にも、アカネズミが生息している可能性は高い。北側の湿地ではカヤネズミの生息を確認するため、巣の発見に努めたが、発見できなかった。金子(1974)によると、芸予諸島の大島、伯方島、大三島、生口島、因島、向島において捕獲調査を行った結果、ハツカネズミが採集された場所では、カヤネズミが採集されず、その逆の結果も得られていることから、ハツカネズミが確認された赤穂根島にはカヤネズミは生息していない可能性もある。食虫類は土壌の発達が乏しいことから、生息に適しているとはいえない。生息していたとしても、食虫類やネズミ類はタヌキによる捕食圧が強いと予想される。

翼手目は隣接する岩城島でユビナガコウモリ、キクガシラコウモリが確認されており(山本ほか, 2004)、赤穂根島でも採餌していることが考えられる。

イノシシは頭骨が採集されたが、島内にイノシシの痕跡は認められなかった。現在のところ定着していないと思われるが、今後も侵入してくることは予想される。今後は今回確認出来なかった種の生息確認に努めたい。

両 生 類

調査方法、調査日

2004年4月26日~27日, 6月7日, 7月2日~3日, 8月27日~28日, 10月15日~16日, 11月29日~30日, 2005年4月26日~27日, 10月11日~12日, 12月28日, 2006年4月3日~4日, 7月13日, 8月3日, 9月27日~28日に目視による調査を行った。

結 果

ニホンアマガエル, ツチガエル, ニホンアカガエルの3種が確認された。いずれも個体数は少なく、鳴き声を聞くこともほとんどなかった。以下に観察記録を記す。学名及び種の配列は、千石ほか(1996)に拠った。

Anura 無尾目

Hylidae アマガエル科

Hyla japonica ニホンアマガエル

島内に広く分布する。

3 Jul 2004, 1 個体。

Ranidae アカガエル科

Rana japonica ニホンアカガエル

島内の森林内と水田で確認された。

27 Sep 2006, 1 個体, 水田で死亡.

28 Sep 2006, 竹林の林床で 2 個体, 法師崎付近の藪
の中で 1 個体.

Rana rugosa ツチガエル

北部の水田とそれに流入する水路, 東部の溜池付近で
確認された.

26 Apr 2004, 水田近くで 3 個体確認.

3 Jul 2004, 1 個体.

爬 虫 類

調査方法, 調査日
両生類と同じ.

結 果

カメ目では, ニホンイシガメとクサガメの両種が確認
された. いずれも水田付近で同所的に生息していた. 有
鱗目のトカゲ亜目では, ニホンヤモリとニホントカゲ
が確認されたが, ニホンカナヘビは確認されなかった.
ヘビ亜目はアオダイショウとシマヘビが確認されたが両
種とも稀であった. 以下に観察記録を記す. 学名及び種
の配列は, 千石ほか (1996) に拠った.

Testudines カメ目

Bataguridae バタゲールガメ科

Chinemys reevesii クサガメ

水田で確認された.

3 Jul 2004, 1 個体.

13 Jul 2006, 1 個体, 水田畦.

Mauremys japonica ニホンイシガメ

水田で確認された.

26 Apr 2004, 1 個体, 水田.

13 Jul 2006, 1 個体, 水田畦.

SQUAMATA 有鱗目

LACERTILIA トカゲ亜目

Gekkonidae ヤモリ科

Gekko japonicus ニホンヤモリ

住居兼農作業小屋と林内にある倒木の樹皮下で発見さ
れた. 倒木の樹皮下で発見された個体は, 体色が濃くタ
ワヤモリかと思われたが, 尾の付け根上面の斑紋が W
字状であり, 目の後方に白っぽい帯状の斑紋がないこと
から (関, 2002) ニホンヤモリとした.

11 Oct 2005, 1 個体.

3 Apr 2006, 1 個体, 樹皮下.

Scincidae トカゲ科

Eumeces latiscutatus ニホントカゲ

島内に広く分布する.

27 Apr 2004, 1 個体.

3 Jul 2004, 1 個体.

Serpentes ヘビ亜目

Colubridae ナミヘビ科

Elaphe climacophora アオダイショウ

島内では稀.

26 Apr 2004, 1 個体, 亜成体.

Elaphe quadrivirgata シマヘビ

島内では稀. 黒化型は確認されなかった.

27 Aug 2004, 1 個体, 水田.

12 Oct 2005, 1 個体, 幼蛇.

28 Sep 2006, 1 個体.

考 察

両生類 3 種, 爬虫類 6 種が確認されたが, いずれの種
も個体数は少ない. 芸予諸島の伯方島では, ニホンアマ
ガエル, ニホンアカガエル, ツチガエル, ダルマガエル,
トノサマガエル, ウシガエルが確認されている (愛媛県
高等学校教育研究会理科部会編, 1993). 赤穂根島でも
ダルマガエル, トノサマガエルの確認が期待されたが,
今回の調査では確認することが出来なかった. 島内の谷
は潤谷がほとんどで, 淡水の水辺は北部の水田周辺とた
め池に限定されることが, カエル類の少ない要因の一つ
であると考えられる. 水田周辺は冬期も水があり, 今回
の調査では確認されなかったが, ニホンアカガエルの産
卵場所になっている可能性が高い.

カメはクサガメとイシガメが同所で確認された. 隣接
する岩城島でもイシガメの生息が確認されており, 芸予
諸島に分布が点在しているようである. 両種とも水田付
近でのみ確認され, 島内での生息域は非常に狭い.

ニホントカゲは島内に広く生息していた. 今回, ニホ
ンカナヘビが確認できなかったが, 大三島や魚島にはニ
ホンカナヘビが生息しており (山本未発表), 芸予諸島内
でも不規則な分布を示す. 海岸の崖などに生息するタワ
ヤモリの生息が予想されたが, ニホンヤモリが確認され
た. 本種は九州の西海岸を除き, 人間の居住区域から離
れたところには見られないとされているが (太田, 1996),
赤穂根島では森林内でも生息が確認された.

ヘビはアオダイショウとシマヘビが確認された. 島内
で両種を目撃することは非常に稀であった. マムシは以
前から生息していないとされる.

移動手段の限られている両生類・爬虫類の島嶼部にお

ける分布は、生物地理学的に興味深く、瀬戸内海全域での分布状況が明らかにされることが望まれる。

淡水魚類・甲殻類

島内の魚類・甲殻類については、調査が十分ではないが、水生昆虫調査の際などに観察された種について報告する。海域での調査は行っていない。魚類の同定、学名は中坊（2000）に拠り、甲殻類は鈴木・佐藤（1994）、三宅（1983）に拠った。

Cypriniformes コイ目

Cyprinidae コイ科

Pseudorasbora parva モツゴ

11 Oct 2005. 北部の谷沿いにある2ヶ所のため池で確認された。釣り人がカサゴ釣りなどの餌として持ち込んだもので、個体数は非常に多い。

Cobitidae ドジョウ科

Misgurnus anguillicaudatus ドジョウ

29 Nov 2004. 11 Oct 2005. 水田内および周辺の水路で確認された。個体数は多い。

Beloniformes ダツ目

Adrianichthyidae メダカ科

Oryzias latipes メダカ

26-27 Apr 2004. 29 Nov 2004. 11 Oct 2005. 水田内の水路および竹の浦の海岸沿い、堤防内側の汽水域で確認された。個体数も多い。

Perciformes スズキ目

Gobiidae ハゼ科

Mugilogobius abei アベハゼ

11 Oct 2005. 島の北西部にある海岸沿いのため池で確認された。水底には落ち葉が堆積し、ヘドロ状になっていた。

Tridentiger obscurus チチブ

26-27 Apr 2004. 11 Oct 2005. アベハゼと同所で幼魚が確認された。

Decapoda 十脚目

Palaemonidae テナガエビ科

Palaemon (*Palaemon*) *paucidens* スジエビ

26-27 Apr 2004. 29 Nov 2004. 11 Oct 2005. 島の北西部にある海岸沿いのため池の他、旧ゴカイ養殖場付近、モツゴが確認された北部の谷沿いにある2箇所のため池

の4箇所で確認された。モツゴと同所で確認されたものは、釣りの餌として持ち込まれたものであるが、他の2箇所については持ち込まれたものかどうか不明である。

Grapsidae イワガニ科

Eriocheir japonicus モクズガニ

27 Apr 2004. 27 Jun 2006. 北部の海岸沿いで確認された。個体数は多くない。

Chiromantes haematocheir アカテガニ

28 Sep 2006. 北部の水田周辺、湿地内、海岸沿いで確認された。水田に近い廃屋の石組みの隙間などでもよく見られた。小型哺乳類捕獲用のトラップに入ることもあった。

Perisesarma bidens フタバカクガニ

11 Oct 2005. 海岸沿いに生息しており、個体数は比較的多い。

Helice tridentata アシハラガニ

11 Oct 2005. 島の北西部にある海岸沿いのため池の土手で複数個体が確認された。

考 察

淡水域が少ないため、生息する種も非常に少ない。魚類ではドジョウ、メダカ、移入されたモツゴが淡水域に生息しており、汽水域にはメダカ、アベハゼ、チチブが生息していた。また、今回の調査中に竹の浦の堤防内側にて、ボラと思われる群が観察されたが、捕獲することはできなかった。ドジョウは愛媛県において準絶滅危惧種とされているが（愛媛県貴重野生動植物検討委員会、2003）、赤穂根島では多数が生息していた。これは、島内の水田で圃場整備が行われていないこと、減農薬の稲作が行われていること、周辺の水路が護岸されず、水田も湿田のため水路と水田の移動が容易なことが関係していると思われる。

甲殻類のうち、淡水に生息していたのは移入されたスジエビのみで、サワガニは確認されなかった。モクズガニは一生のうちで海水と淡水を行き来しており、淡水域の少ない赤穂根島での生息確認は意外であった。アカテガニは他の芸予諸島と同じく個体数が多かった。

お わ り に

今回の調査において哺乳類3種、両生類3種、爬虫類6種、および若干の魚類、甲殻類が確認された。

今後、他島での調査が進むことで、芸予諸島における

動物相の特性や、各島ごとの特性が明らかになってくるであろう。特に両生類、爬虫類は島嶼間の移動が制限された状態で、どのような分布様式を示すのか興味深い。また、タヌキの他の生物への捕食圧、放棄農地の遷移による生物相の変化、イノシシの侵入による生物相の変化なども今後の重要な調査テーマである。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明(2005)日本の哺乳類改訂版. 東海大学出版会. 東京. 206pp.
- 愛媛県貴重野生動植物検討委員会(2003)愛媛県レッドデータブック. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課. 447pp.
- 愛媛県高等学校教育研究会理科部会編(1993)伯方島の生物 第二次総合調査. pp. 121-124.
- 金子之史(1974)本四架橋予定島嶼の動物相調査小型哺乳類について. 財団法人国立公園協会. pp. 23-27.
- 金子之史(1985)四国に生息する食虫類・小型齧歯類の水平分布. 香川生物. 13. pp. 9-15.
- 金子之史(1992)四国における野ネズミ3種の地理的分布. 日本生物地理学会会報. 47巻16号. pp. 127-141.
- 川口 敏・北恵利子・野口和恵(1999)芸予諸島の小哺乳類(1). 香川生物. 26. pp. 17-20.
- 川口 敏・方専 真(2003)芸予諸島の小哺乳類(2). 香川生物. 30. pp. 1-3.
- 川口 敏(2003)瀬戸内海島嶼におけるアカネズミとコウベモグラの分布. 哺乳類科学 43(2). pp. 121-126.
- 黒田長久編(1974)本四架橋予定島嶼の動物相調査動物部門. 財団法人国立公園協会. 75pp.
- 三宅貞祥(1983)原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅱ). 保育社. 大阪. 277pp.
- 太田英利(1996)ヤモリ類の冬眠. 日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社. 東京. p. 66.
- 千石正一・疋田 努・松井正文・仲谷一宏編(1996)日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社. 東京. 189pp.
- 関慎太郎(2002)トカゲ亜目. 日本の両生爬虫類. 平凡社. 東京. p. 201.
- 鈴木廣志・佐藤正典(1994)淡水産のエビとカニ. 西日本新聞社. 137pp.
- 山本貴仁・阿部嘉昭・山本栄治・宮本大右(2004)愛媛県における翼手目の生息記録. 愛媛県総合科学博物館研究報告. 9. pp. 1-9.
- 中坊徹次編(2000)日本産魚類検索全種の同定第二版. 東海大学出版会. 1748pp.



図2 タヌキ (30 Nov 2004)

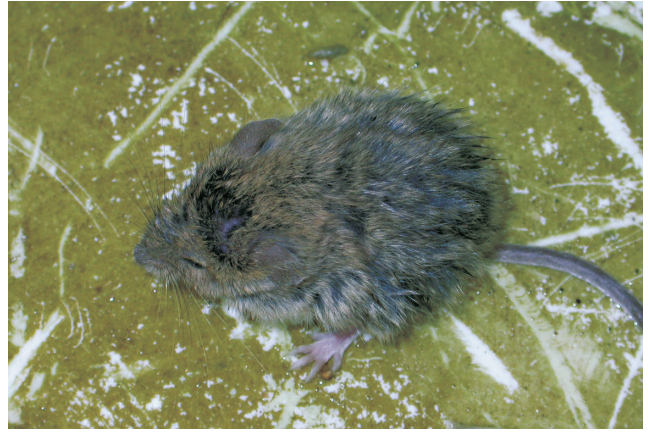


図3 ハツカネズミ (27 Apr 2004)



図4 ニホンアカガエル (28 Sep 2006)



図5 ツチガエル (26 Apr 2004)



図6 クサガメ (13 Jun 2006)



図7 ニホンイシガメ (13 Jun 2006)



図8 ニホンヤモリ (4 Apr 2006)



図9 ニホントカゲ (27 Apr 2004)



図10 アオダイショウ (26 Apr 2004)



図11 シマヘビ (12 Oct 2005)



図12 モツゴ (12 Oct 2005)



図13 ドジョウ (11 Oct 2005)



図14 モクズガニ (27 Jun 2006)



図15 アカテガニ (12 Oct 2005)



図16 フタバカクガニ (11 Oct 2005)



図17 アシハラガニ (11 Oct 2005)

愛媛県越智郡上島町赤穂根島の動物相 II (鳥類)

はじめに

愛媛県の瀬戸内海島嶼部に生息する鳥類については、これまでに弓削島(弓削町, 1999), 伯方島(丹下, 1982), 岩城島(愛媛大学野生生物研究会, 1995; 山本ほか, 2001)の報告がある。赤穂根島においては, リゾート開発計画に伴う環境影響調査の一環として行われた調査(未公開)と, 繁殖期における瀬戸内海島嶼部の鳥類相を明らかにする一環で実施された調査がある(山本, 2000)。

赤穂根島は, 現在は2名が居住する有人島であるが, 1950年代から2001年までの期間は無人島であった。隣接する岩城島からの出作りによる果樹栽培や小規模な畑作が行われているが, 放棄された農地や果樹園が多く, 森林へと遷移しつつある。生物相の特徴としては, 多くのタヌキが生息するという特徴がある。今回の調査は, 現在の赤穂根島の鳥類相を明らかにすることを目的とした。

調査方法

調査は, 島内に生息する鳥類をできる限り多く記録することを目的とするため, 島内滞在中に観察された全ての種と個体数, 出現した景観を記録した。また, 2004年の4月と11月にラインセンサス法による調査を行った。コースは, 島内を半周する農道(5.9km)に設定し(図1), 両側25m以内に出現した鳥類の種類数と個体数を記録した。夜間活動する種については, 不定期であるがラインセンサスのコースの一部で日没後から未明にかけての観察を行った。ラインセンサスのコースには, 高木の広葉樹林, 亜高木の広葉樹林, 低木の広葉樹林, 草地, 竹林, 果樹園, ヨシの茂る湿地, 水田, 畑, 海岸, ため池, 用水路が含まれる。

調査日: 2004年4月26日~27日, 6月7日, 7月2日~3日, 8月27日~28日, 10月15日~16日, 11月29日~30日, 2005年4月26日~27日, 10月11日~12日, 12月28日, 2006年4月3日~4日, 7月13日, 8月3日, 9月27日~28日, 2007年1月23日

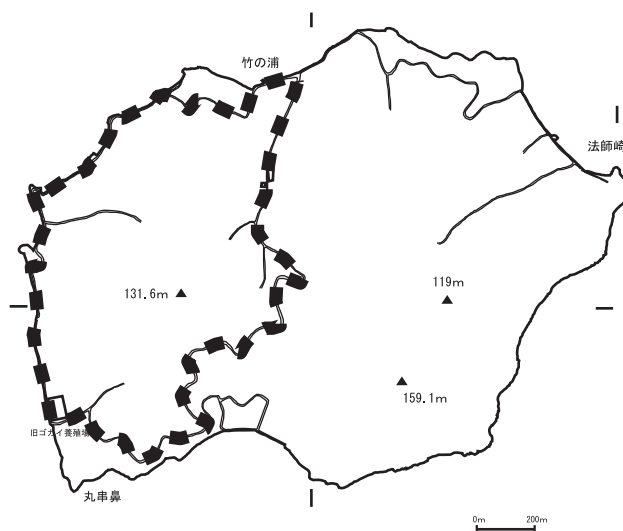


図1 ラインセンサスルート

結 果

2004年4月から2007年1月の期間において, 周辺の海上や上空で観察された種を含め, 69種の鳥類が記録された(表1)。学名及び種の配列は, 日本鳥学会(2000)に従った。今回の調査では確認できなかったが, 以前に観察されたオオタカ, ハヤブサ, セッカを含めると, これまでに赤穂根島で記録された鳥類は72種になる。繁殖については, 2004年4月の調査では, ヤマガラ, シジュウカラの餌を運ぶ様子が観察されたほか, アオサギのコロニーが確認され, 巣内の雛も確認された。また, 2006年7月にカルガモの親子が観察された。

特筆すべき種としては, オオハクチョウが2005年12月23日~28日に水田で観察された。また, オシドリが2006年12月28日(♂3 ♀4)と2007年1月23日(30個体)にため池で観察された。

2004年に実施したラインセンサスでは, 4月に13種, 11月には14種が記録された(表2)。両調査において種類数に大きな差はないが, 総個体数はスズメの群れが観察されたため11月の方が大幅に増加した。どちらのラインセンサスでも記録されたのはメジロ, ウグイス, ヒヨドリ, ヤマガラ, キジバト, ホオジロ, カワラヒワ, セグロセキレイであった。その他の種は, 4月にはハシブトガラス, ツバメ, シジュウカラ, ヤブサメ, コゲラが

表1 赤穂根島鳥類出現期表

No	目	科	種名	Apr.	May.	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan.	Feb.	Mar.
1	ペリカン目	ウ科	<i>Phalacrocorax carbo</i>										●		
2	コウノトリ目	サギ科	<i>Nycticorax nycticorax</i>	●			●	●		●					
3			<i>Egretta alba</i>	●		●	●	●					●		
4			<i>Egretta garzetta</i>	●			●								
5			<i>Ardea cinerea</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
6	カモ目	カモ科	<i>Cygnus cygnus</i>									●			
7			<i>Aix galericulata</i>									●	●		
8			<i>Anas platyrhynchos</i>								●		●		
9			<i>Anas poecilorhyncha</i>	●		●	●				●		●		
10			<i>Anas crecca</i>								●			●	
11	タカ目	タカ科	<i>Pandion haliaetus</i>	●			●		●	●	●	●	●	●	
12			<i>Milvus migrans</i>	●			●	●	●	●	●	●	●	●	
13			<i>Accipiter gentilis</i>								●			●	
14			<i>Accipiter nisus</i>								●		●		
15			<i>Buteo buteo</i>								●		●		
16			<i>Butastur indicus</i>					●							
17		ハヤブサ科	<i>Falco peregrinus</i>					●							
18	キジ目	キジ科	<i>Symaticus soemmerringii</i>							●					
19			<i>Phasianus colchicus</i>	●		●	●		●	●					
20	ツル目	クイナ科	<i>Porzana fusca</i>	●			●	●	●				●		
21			<i>Gallinula chloropus</i>	●											
22	チドリ目	シギ科	<i>Actitis hypoleucos</i>	●					●	●	●		●	●	
23		カモメ科	<i>Larus argentatus</i>								●				
24			<i>Larus crassirostris</i>					●			●		●		
25	ハト目	ハト科	<i>Streptopelia orientalis</i>	●			●	●		●	●	●	●		
26			<i>Sphenurus sieboldii</i>										●	●	
27	カッコウ目	カッコウ科	<i>Cuculus poliocephalus</i>			●	●								
28	アマツバメ目	アマツバメ科	<i>Apus pacificus</i>	●			●								
29	ブッポウソウ目	カウセミ科	<i>Alcedo atthis</i>							●					
30	キツツキ目	キツツキ科	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●			●		●	●	●	●	●	●	
31	スズメ目	ツバメ科	<i>Hirundo rustica</i>	●		●	●	●							
32			<i>Delichon urbica</i>							●					
33		セキレイ科	<i>Motacilla cinerea</i>	●				●	●	●	●				
34			<i>Motacilla alba</i>							●		●	●		
35			<i>Motacilla grandis</i>	●			●		●	●	●	●		●	
36		ヒヨドリ科	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
37		モズ科	<i>Lanius bucephalus</i>	●						●	●	●	●	●	
38		ミソサザイ科	<i>Troglodytes troglodytes</i>								●				
39		ツグミ科	<i>Erithacus akahige</i>	●											
40			<i>Tarsiger cyanurus</i>								●	●	●	●	
41			<i>Phoenicurus aureus</i>							●	●	●	●	●	
42			<i>Zoothera dauma</i>								●				
43			<i>Turdus chrysolaus</i>	●											
44			<i>Turdus pallidus</i>	●							●	●	●	●	
45			<i>Turdus naumanni</i>								●		●	●	
46		ウグイス科	<i>Urosphena squameiceps</i>	●		●	●								
47			<i>Cettia diphone cantans</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
48			<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	●											
49			<i>Cisticola juncidis</i>				●								
50		ヒタキ科	<i>Ficedula narsissina</i>	●		●	●			●					
51			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●											
52			<i>Muscicapa griseisticta</i>							●					
53			<i>Muscicapa dauurica</i>						●						
54		エナガ科	<i>Aegithalos caudatus</i>	●		●			●	●	●		●	●	
55		シジュウカラ科	<i>Parus varius</i>	●			●		●	●		●	●	●	
56			<i>Parus major</i>	●			●	●	●	●	●	●	●	●	
57		メジロ科	<i>Zosterops japonica</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
58		ホオジロ科	<i>Emberiza cioides</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
59			<i>Emberiza rustica</i>								●		●		
60			<i>Emberiza elegans</i>								●				
61			<i>Emberiza spodocephala</i>	●							●	●	●	●	
62			<i>Emberiza variabilis</i>	●							●			●	
63		アトリ科	<i>Fringilla montifringilla</i>								●		●		
64			<i>Carduelis sinica</i>	●		●	●	●		●	●			●	
65			<i>Carduelis spinus</i>										●		
66			<i>Uragus sibiricus</i>										●		
67			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>										●		
68			<i>Eophona personata</i>										●		
69			<i>Coccothraustes</i>	●											
70		ハタオリドリ科	<i>Passer montanus</i>	●			●	●	●	●	●	●	●	●	
71		カラス科	<i>Corvus corone</i>						●	●	●	●	●	●	
72			<i>Corvus macrorhynchos</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
種類数				38	未調査	15	27	20	20	28	37	22	38	29	未調査

※全ての観察例を集計して作成

記録されたのに対し、11月はスズメ、シロハラ、アオジ、ルリビタキ、ジョウビタキ、モズが記録された。ただ、島内の滞在中に観察された全ての種は4月が36種、11月は31種であり、ラインセンサスで捉えられた種類は少なかった。

景観別では、亜高木の森林内やその林縁で記録された種が17種と最も多かった。果樹園は秋から冬にかけてメジロ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが柑橘類を求めて現れたが、春や夏にはホオジロ、キジバトが観察される程度であった。竹林では、コゲラ、コマドリ、シロハラ、ヤブサメ、ウグイス、メジロが観察された。水辺では湿地でヒクイナ、オオヨシキリが観察された。

考 察

記録された72種のうち、繁殖を確認、もしくは繁殖の可能性がある種は、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、ヤマドリ、キジ、ヒクイナ、キジバト、ホトトギス、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヤブサメ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、キビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの27種である。隣接する岩城島では40種が繁殖の可能性がある種とされており（山本ほか、2001）、四国島の低山で繁殖する種と比較すると、森林性ではサシバ、ハチクマ、カッコウ、アオゲラ、アオバト、オオルリ、コサメビタキ、カケス、水辺ではカワセミなどを欠いている。キビタキは6月、7月に囀りが聞かれ繁殖している可能性があるが、オオルリは4月のみ確認され、繁殖の可能性は低い。これは、オオルリの好む溪流沿いの林が島には存在しないためと推測される。サシバ、カッコウ、アオゲラ、アオバトは四国島では、赤穂根島と同程度の環境があれば、よく観察される種であるが、今回の調査では繁殖期には確認されなかった。また、赤穂根島には人家が一戸しか

ないことから、主に人家で繁殖するツバメ、ムクドリが繁殖していないと考えられる。

森林性の種のうち、シジュウカラとヤマガラが繁殖期に観察された。両種は主に樹洞で繁殖するため、樹洞の形成が可能なサイズの樹木の存在が不可欠である。森林が未発達な島では両種が繁殖期に記録されていないことから（上田、1992）、赤穂根島の森林は両種の繁殖が可能な状態であるといえる。

ヤマドリとキジは少ないながら確認された。両種とも赤穂根島における放鳥の記録はなく、自然分布と考えられる。ただ、著者の一人である宮脇によると近年、観察例が少なくなっている。島内にはタヌキが相当数生息しており、地上で産卵、育雛する種はタヌキの影響を受けていると考えられる。

島内では昭和40年代まで盛んに柑橘類が栽培されてきた。近年では放棄された果樹園が多くなり、森林へと遷移しつつある。最近放棄された果樹園はクズに覆われていることが多い。このような場所ではウグイスやホオジロがよく見られたが、遷移が進むにつれて鳥類相も変化するであろう。竹林内で観察された種は少なく、コゲラ、コマドリ、シロハラ、ヤブサメ、ウグイス、メジロであった。このうち、コマドリは渡りの途中であると思われる。竹林の拡大も鳥類相に影響を与える可能性がある。

水辺に生息する種は、海岸と海上を除き、島の北部にある湿地と水田、島内の小規模なため池で観察された。ため池は農業用に造られ管理されていたと思われるが、現在はその存在を確認するのも困難なほど、周囲を樹木やダンチクに覆われている。カモ類が休息に利用しているようであるが、夜間の場合は種の同定は困難である。カモ類は水田に飛来することもあり、落穂を食べているようだ。現在、湿地としてヨシに覆われている場所もかつては稲作が行われていた場所である。放棄されたためにヨシやガマが生育する環境となり、オオヨシキリ、セッカ、ヒクイナが観察された。個体数は少ないながら、

表2 ラインセンサスの結果

ラインセンサス 繁殖期 2004.4.26

種 名	個体数	優占率
<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	18 23%
<i>Zosterops japonica</i>	メジロ	13 16%
<i>Cettia diphone cantans</i>	ウグイス	12 15%
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	9 11%
<i>Parus varius</i>	ヤマガラ	7 9%
<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	4 5%
<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	4 5%
<i>Parus major</i>	シジュウカラ	4 5%
<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	3 4%
<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	2 3%
<i>Carduelis sinica</i>	カワラヒワ	2 3%
<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	1 1%
<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	1 1%
	13種	80 100%

ラインセンサス 越冬期 2004.11.30

種 名	個体数	優占率
<i>Passer montanus</i>	スズメ	100 46%
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	46 21%
<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	18 8%
<i>Zosterops japonica</i>	メジロ	12 6%
<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	9 4%
<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	8 4%
<i>Cettia diphone cantans</i>	ウグイス	6 3%
<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	6 3%
<i>Phoenicurus aureoreus</i>	ジョウビタキ	4 2%
<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	3 1%
<i>Carduelis sinica</i>	カワラヒワ	3 1%
<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	1 0%
<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	1 0%
<i>Parus varius</i>	ヤマガラ	1 0%
	14種	218 100%

※上空通過の種は除く。

湿地やため池の存在は、島の鳥の種類数を規定する大きな要素であるといえる。

お わ り に

赤穂根島は、人間活動の影響が少ない環境であり、多くの種が生息していることが期待された。しかし、隣接する岩城島と比較して確認種数、繁殖の可能性がある種数とも大きく下回った。今後、隣接する他の島において同様の調査を行い、それぞれの種にとって生息に必要な条件を明らかにしていきたい。

引用文献

- 愛媛大学野生生物研究会（1995）岩城島（積善山）野鳥調査まとめ。岩城村。17pp.
- 日本鳥学会（2000）日本鳥類目録改訂第6版。345pp.
- 丹下一彦（1982）伯方島の生物 第二次総合調査 鳥類 愛媛県高等学校教育研究会理科部会。pp.121-124.
- 上田恵介（1992）カラ類のいない島，長崎大島の鳥相。Strix Vol. 11. pp.253-261.
- 山本貴仁（2000）瀬戸内海島嶼部の鳥類相に影響を与える要因。愛媛大学大学院農学研究科修士論文。
- 山本貴仁・小川次郎・宮脇 馨（2001）愛媛県岩城島鳥類目録。愛媛県総合科学博物館研究報告第6号。pp. 25-32.
- 弓削町（1999）弓削 野鳥ガイドブック。111pp.

赤穂根島の鳥類観察記録

渡りの区分は赤穂根島における観察記録により区分した。観察記録は、観察日、観察月、観察年、個体数、観察された場所及び環境を記した。今回の調査期間に観察例のないオオタカ、ハヤブサ、セッカについては、山本による過去の観察記録を掲載した。

PELECANIFORMES ペリカン目

PHALACROCORACIDAE ウ科

Phalacrocorax carbo カワウ

稀な冬鳥。

23 Jan 2007, 1羽, 海上を飛翔。

CICONIIFORMES コウノトリ目

ARDEIDAE サギ科

Nycticorax nycticorax ゴイサギ

留鳥。北部の湿地やその周辺で観察されたが、個体数は少ない。

26 Apr 2005, 1羽。

16 Jul 2000, 1羽, 農業用溜池。

16 Oct 2004, 1羽, 北側の水路。

Egretta alba ダイサギ

留鳥。2004年4月にアオサギのコロニー内で観察されたが、巣や雛は確認できなかった。

26 Apr 2004, 1羽, アオサギコロニーにて確認。

3 Jul 2004, 1羽。

27 Aug 2004, 1羽。

Egretta garzetta コサギ

留鳥。北側の水田で6月に観察されたが稀。個体数も少ない。

16 Jul 2000, 1羽, 水田跡。

3 Jul 2004, 1羽。

Ardea cinerea アオサギ

留鳥。島の北西部の林でコロニーが確認された。海岸でもよく見られる。

26 Apr 2004, 16羽(成鳥), 7巣と巣内雛1羽。

27 Aug 2004, 4羽。

30 Nov 2004, 3羽, 上空を飛翔する個体。

ANSERIFORMES カモ目

ANATIDAE カモ科

Cygnus cygnus オオハクチョウ

迷鳥。2005年12月23日から12月28日まで、成鳥が水田に滞在した。この年は、北日本で雪が多く、西日本各地

にオオハクチョウ、コハクチョウ、マガンなどが渡来した。

23-28 Dec 2005, 1羽, 水田。

Aix galericulata オシドリ

冬鳥。少数がため池に入ることがある。海上で観察されることはなく、島嶼部では少ない。

28 Dec 2005, 7羽(♂3♀4)

23 Jan 2007, 30羽。

Anas platyrhynchos マガモ

冬鳥。2004年11月の観察では夜間、数十羽のカモ類が北部の水田と溜池に入るのが確認されたが種の確認はできなかった。翌朝、マガモの♂1個体が死体で発見された。

29 Nov 2004, 1羽, 死亡個体, 水田。

9 Nov 2002, 6羽。

23 Jan 2007, 3羽。

Anas poecilorhynchos カルガモ

留鳥。北部の湿地、水田や海岸で観察された。2006年7月に水田で親子が観察されたことから島内で繁殖している。

26 Apr 2005, 3羽, 竹の浦。

13 Jul 2006, 成鳥2羽+成鳥1羽と雛6±羽, 水田。

30 Nov 2004, 5羽, 岩城島側の海上。

Anas crecca コガモ

冬鳥。北部の湿地とため池で観察された。

30 Nov 2004, 2羽, 湿地。

27 Feb 2000, 9羽, 旧ゴカイ養殖場に近いため池。

FALCONIFORMES タカ目

ACCIPITRIDAE タカ科

Pandion haliaetus ミサゴ

留鳥。周辺の海上や島の上空で観察されることがあるが個体数は少ない。

27 Feb 2000, 1羽。

27 Apr 2005, 1羽, 峠付近上空。

16 Oct 2004, 1羽

Milvus migrans トビ

留鳥。周辺の海上や島の上空でよく観察される。

26 Apr 2005, 2羽, 竹の浦から峠の区間。

27 Aug 2004, 2羽。

27 Feb 2000, 1羽。

Accipiter gentiles オオタカ

冬鳥.

27 Feb 2000, 1羽, 成鳥, 林縁の木にとまる.

9 Nov 2002, 1羽.

Accipiter nisus ハイタカ

冬鳥.

23 Jan 2007, 1羽.

30 Nov 2004, 1羽, 上空を飛翔.

Buteo buteo ノスリ

冬鳥. 2004年11月には3羽が観察された.

23 Jan 2007, 2羽.

30 Nov 2004, 3羽.

Butastur indicus サシバ

旅鳥. 8月上旬に上空を南下する2羽が観察された.

3 Aug 2006, 2羽.

Falco peregrinus ハヤブサ

冬鳥. 赤穂根島では, 2月に観察されたのみであるが, 近隣の弓削島では年間を通じて観察され, 冬期に行動圏が拡大するとされる(弓削町, 1999).

27 Feb 2000, 1羽.

GALLIFORMES キジ目

PHASIANIDAE キジ科

Syrnium soemmerringii ヤマドリ

留鳥. 2004年10月16日に雄1羽が, 北側の水田や果樹園がある環境で観察された. 放鳥の記録はなく, 自然分布と思われるが, 個体数は極めて少ない. 隣接する岩城島にも生息する.

16 Oct 2004, 1羽, 畑, ♂.

Phasianus colchicus キジ

留鳥. 岩城島では1995年まで放鳥が行われていたが, 赤穂根島での放鳥記録はない. 近年, 個体数が減少している.

26 Apr 2005, 1羽, ♂, 竹の浦, 鳴き声を確認.

16 Jul 2000, 2羽, ♂1 ♀1, 果樹園.

16 Oct 2004, 1羽, ♂, 南側の海岸沿い.

GRUIFORMES ツル目

RALLIDAE クイナ科

Porzana fusca ヒクイナ

留鳥. 湿地, 水田で確認.

3 Apr 2006, 4羽, 湿地で盛んに鳴く.

26 Apr 2005, 2羽, 竹の浦と法師崎でそれぞれ鳴き

声を確認.

2 Jul 2004, 1羽, 夜に声を確認.

Gallinula chloropus バン

旅鳥. 北側の湿地で確認. 繁殖期に確認されているが, 2004年4月に1回のみの記録で, 以後記録されていない.

26 Apr 2004, 2羽, 声を確認.

CHARADRIIFORMES チドリ目

SCOLOPACIDAE シギ科

Actitis hypoleucos イソシギ

冬鳥. 海岸で観察されることが多いが個体数は少ない.

26 Apr 2004, 1羽, 北側の海岸.

15 Oct 2004, 1羽, 北側の海岸.

27 Feb 2000, 1羽.

Larus argentatus セグロカモメ

冬鳥. 赤穂根島周辺の海上で観察される.

30 Nov 2004, 1羽, 岩城島側の海上.

Larus crassirostris ウミネコ

留鳥. 冬期に個体数が増加するが, 8月から島の周辺で観察される.

27 Aug 2004, 1羽.

9 Nov 2002, 1羽, 旧ゴカイ養殖場付近の海岸.

COLUMBIFORMES ハト目

COLUMBIDAE ハト科

Streptopelia orientalis キジバト

留鳥. 島内の森林や果樹園, 放棄果樹園などに普通.

26 Apr 2004, 4羽.

27 Aug 2004, 2羽.

16 Oct 2004, 5羽以上.

Sphenurus sieboldii アオバト

冬鳥. 冬期に群れが見られることがあるが稀, その他の時期には観察されていない.

27 Feb 2000, 15羽.

23 Jan 2007, 1羽.

CUCULIFORMES カッコウ目

CUCULIDAE カッコウ科

Cuculus poliocephalus ホトトギス

夏鳥. 島内にはウグイスが多く, 托卵しているものと思われる.

7 Jun 2004, 2羽, 囀りを確認.

3 Jul 2004, 2羽, 囀りを確認.

APODIFORMES アマツバメ目

APODIDAE アマツバメ科

Apus pacificus アマツバメ

旅鳥。春から秋にかけて上空を飛翔する個体が観察された。

26 Apr 2004, 1羽, 上空を飛翔。

2 Jul 2004, 3羽。

27 Apr 2005, 6羽, 峠上空を飛翔。

CORACIIFORMES ブッポウソウ目

ALCEDINIDAE カワセミ科

Alcedo atthis カワセミ

迷鳥。北側の湿地で2004年10月に鳴き声が確認されているが、極めて稀。隣の岩城島では周年生息が確認されている。

15 Oct 2004, 1羽, 湿地で鳴き声を聞く。

PICIFORMES キツツキ目

PICIDAE キツツキ科

Dendrocopos kizuki コゲラ

留鳥。島内の森林に生息。

26 Apr 2004, 1羽。

3 Jul 2004, 1羽, 声を聞く。

15 Oct 2004, 2羽, 北側の海岸沿いの林。

PASSERIFORMES スズメ目

HIRUNDINIDAE ツバメ科

Hirundo rustica ツバメ

夏鳥。島内での繁殖は確認されていない。隣接する岩城島では繁殖が確認されており、採餌のために赤穂根島へ来ているものと思われる。

26 Apr 2004, 4羽, 果樹園の中の電線。

3 Jul 2004, 2羽。

26 Apr 2005, 10羽以上, 竹の浦から峠の区間。

Delichon urbica イワツバメ

旅鳥。秋の渡りの時期に上空を飛翔する個体が観察された。

16 Oct 2004, 1羽, 小屋の南側。

MOTACILLIDAE セキレイ科

Motacilla cinerea キセキレイ

冬鳥。北側の果樹園や水田がある環境で観察されたが、個体数は少ない。

27 Apr 2005, 1羽。

3 Aug 2006, 2羽。

30 Nov 2004, 1羽。

Motacilla alba ハクセキレイ

冬鳥。四国島では留鳥として繁殖しているが、赤穂根島では秋から冬に少数が観察されたのみ。

15 Oct 2004, 2羽, 北側の海岸沿い。

23 Jan 2007, 1羽, 法師崎。

Motacilla grandis セグロセキレイ

留鳥。水田の周辺や畑で観察された。

27 Feb 2000, 1羽。

3 Jul 2004, 1羽, 幼鳥。

30 Nov 2004, 3羽, 水田。

PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

Hypsipetes amaurotis ヒヨドリ

留鳥。島内の森林に普通。繁殖期には個体数は少なく、秋から冬には島内の柑橘類の栽培地で特に多くの個体が観察される。秋には移動中と思われる群れが海岸沿いで見られた。

7 Jun 2004, 5羽以上。

16 Oct 2004, 20羽以上, 農道沿い, 島内一周。

30 Nov 2004, 43羽, 南側の海岸を西へ飛ぶ。

LANIIDAE モズ科

Lanius bucephalus モズ

留鳥。個体数は少ない。

27 Apr 2005, 1羽, ♀, 大手原。

16 Oct 2004, 2羽, 北側の水田と南側の畑。

2 Feb 2000, 1羽。

TROGLODYTIDAE ミソサザイ科

Troglodytes troglodytes ミソサザイ

冬鳥。四国島では、やや標高の高いところで繁殖しているが、赤穂根島では繁殖期には観察されていない。2004年11月に地鳴きが聞かれ、冬期には移動してくる個体がいるようであるが少ない。

29 Nov 2004, 1羽, 北側湿地東側の林内, 地鳴き。

TURDIDAE ツグミ科

Erithacus akahige コマドリ

旅鳥。四国島では、夏鳥として標高の高い地域に渡来し繁殖する。4月に通過中と思われる個体が確認された。

27 Apr 2005, 1羽, 囀りを聞く。

3-4 Apr 2006, 1羽, 谷の竹やぶで囀りを聞く。

Tarsiger cyanurus ルリビタキ

冬鳥。冬期に農道沿いの林縁でよく観察される。

23 Jan 2007, 2羽。

27 Feb 2000, 1羽。

30 Nov 2004, 8羽, ラインセンサス.

Phoenicurus aureus ジョウビタキ

冬鳥. 島内の果樹園や林縁などやや開けた環境で観察される.

27 Feb 2000, 6羽, 農道沿い.

16 Oct 2004, 6羽, 農道沿い.

30 Nov 2004, 4羽, ラインセンサス.

Zoothera dauma トラツグミ

冬鳥. 2004年11月に1羽が観察された. 夜間に声を聞くこともなく, 留鳥かどうかは不明.

29 Nov 2004, 1羽, 湿地東側の林内.

Turdus chrysolaus アカハラ

旅鳥. 2006年4月に1羽の囀り. 渡りの途中と思われる.

4 Apr 2006, 1羽, 囀りが聞かれた.

Turdus pallidus シロハラ

冬鳥. 冬期に林縁や林内で多くの個体が観察され, 4月にも残っている個体がいる.

27 Feb 2000, 8羽, 農道沿い.

26 Apr 2005, 2羽.

30 Nov 2004, 18羽, ラインセンサス.

Turdus naumanni ツグミ

冬鳥. 年による変動があると思われるが, シロハラに比べて個体数は少ない.

23 Jan 2007, 23羽, 農道沿い.

27 Feb 2000, 1羽.

29 Nov 2004, 2羽, 水田.

SYLVIIDAE ウグイス科

Urosphena squameiceps ヤブサメ

夏鳥. 春から夏に鳴き声を聞く.

26 Apr 2004, 1羽, 囀り.

27 Apr 2005, 1羽, 囀り.

7 Jun 2004, 1羽, 囀り.

Cettia diphone cantans ウグイス

留鳥. 島内の林縁などに多い.

26 Apr 2005, 8羽.

16 Oct 2004, 10羽以上, 農道沿い.

30 Nov 2004, 6羽, ラインセンサス.

Acrocephalus arundinaceus オオヨシキリ

稀な夏鳥. 北側湿地のヨシ群落で観察された.

26 Apr 2004, 1羽, 囀り, 湿地.

Cisticola juncidis セッカ

稀な夏鳥. 2000年に北側湿地のヨシ群落で記録されたが, 以後は記録されていない.

16 Jul 2000, 1羽, 囀り, 湿地.

MUSCICAPIDAE ヒタキ科

Ficedula narcissina キビタキ

夏鳥. 繁殖期に囀りが聞かれ, 島内で繁殖しているものと思われる.

26 Apr 2005, 2羽, 囀り, 1羽は法師崎付近.

3 Jul 2004, 1羽, 囀り.

16 Oct 2004, 1羽, ♀.

Cyanoptila cyanomelana オオルリ

旅鳥. 4月の記録のみであり, 渡り途中の個体と思われる.

26 Apr 2005, 3羽, 囀り, 峠から法師崎の区間.

Muscicapa griseisticta エゾビタキ

旅鳥. 秋の渡りの時期に林縁や海岸沿いの林で観察された.

16 Oct 2004, 2羽.

Muscicapa dauurica コサメビタキ

旅鳥. 秋の渡りの時期に観察された.

28 Sep 2006, 1羽.

AEGITHALIDAE エナガ科

Aegithalos caudatus エナガ

留鳥. 島内の森林に生息.

26 Apr 2004, 2羽.

16 Oct 2004, 5羽以上.

30 Nov 2004, 6羽, シジュウカラ, メジロと混群.

PARIDAE シジュウカラ科

Parus varius ヤマガラ

留鳥. 4月に餌を運ぶ成鳥が観察され, 島内で繁殖しているものと思われる.

26 Apr 2004, 2羽, 餌を運ぶ.

3 Jul 2004, 3羽.

16 Oct 2004, 3羽.

Parus major シジュウカラ

留鳥. 島内の森林に生息. 4月に餌を運ぶ成鳥が観察され, 島内で繁殖しているものと思われる.

26 Apr 2004, 2羽, 餌を運ぶ.

27 Aug 2004, 2羽.
30 Nov 2004, 1羽, メジロ, エナガと混群.

ZOSTEROPIDAE メジロ科

Zosterops japonica メジロ

留鳥. 森林に生息. 冬期は柑橘類の栽培地に多く, シ
ジュウカラ, エナガとの混群が観察された.

26 Apr 2004, 2羽, 囀り.
27 Aug 2004, 3羽.
30 Nov 2004, 13羽, ラインセンサス.

EMBERIZIDAE ホオジロ科

Emberiza cioides ホオジロ

留鳥. 果樹園や草地, 農道沿いでよく観察される.

3 Jul 2004, 5羽以上.
16 Oct 2004, 5羽以上.
30 Nov 2004, 6羽, ラインセンサス.

Emberiza rustica カシラダカ

冬鳥.
23 Jan 2007, 4羽, 水田付近.
30 Nov 2004, 4羽, 北部湿地東側の林縁.

Emberiza elegans ミヤマホオジロ

冬鳥. 2004年11月に1羽が観察された.
30 Nov 2004, 1羽, ♂, 小屋近くの林縁.

Emberiza spodocephala アオジ

冬鳥. 林縁で多く観察される.
27 Feb 2000, 6羽, 農道.
26 Apr 2004, 2羽, 声を確認.
30 Nov 2004, 9羽, ラインセンサス.

Emberiza variabilis クロジ

冬鳥. 林縁で観察される.
29 Nov 2004, 3羽, ♂2 ♀1.
27 Feb 2000, 1羽, ♂.

FRINGILLIDAE アトリ科

Fringilla montifringilla アトリ

冬鳥. 冬期に群れが見られることがある.
23 Jan 2007, 80±羽, 20~30羽の群になる.
27 Feb 2000, 10羽以上, アキニレの実を食べる.
9 Nov 2002, 20±羽.

Carduelis sinica カワラヒワ

留鳥. 林縁や果樹園などに生息.
26 Apr 2005, 10+羽.

7 Jun 2004, 2羽, 囀り.
16 Oct 2004, 2羽.

Carduelis spinus マヒワ

冬鳥.
23 Jan 2007, 3羽.

Uragus sibiricus ベニマシコ

冬鳥.
23 Jan 2007, ♂1羽 ♀1羽.

Pyrhula pyrrhula ウソ

冬鳥.
23 Jan 2007, 1羽, 鳴き声を確認.

Eophona personata イカル

冬鳥.
23 Jan 2007, 4羽.

Coccothraustes coccothraustes シメ

冬鳥. 四国島には冬鳥として渡来する.
26 Apr 2005, 1羽, 鳴き声, 竹の浦.

PLOCEIDAE ハタオリドリ科

Passer montanus スズメ

留鳥. 水田, 畑, 果樹園周辺に生息. 秋から冬に個体
数が多くなり, 水田周辺で群れが見られる.

26 Apr 2004, 2羽.
27 Aug 2004, 10羽以上, 水田~湿地.
9 Nov 2002, 200羽以上, 水田~湿地.

CORVIDAE カラス科

Corvus corone ハシボソガラス

留鳥. ハシボソガラスに比べて個体数は少ない.
23 Jan 2007, 3羽.
27 Feb 2000, 1羽.
27 Sep 2006, 1羽.

Corvus macrorhynchos ハシブトガラス

留鳥. 主に森林に生息. 海岸沿いや果樹園などでも観
察される.

26 Apr 2004, 15羽.
3 Jul 2004, 10羽以上.
30 Nov 2004, 5羽.